

わが家のお弁当

- あの方は毎日遅くまで残業している。
- あの方は、仕事も家事も両方こなしているらしい。
- あの方は上司とよく一杯飲みに行っている。
- あの方はいつも私にお茶を入れてくれる。

上の例を見て、皆さんはこの行動は、男性・女性のどちらが行ったものだと思いますか。また、この行動を男性が行った場合、女性が行った場合にどのような印象を持ちましたか。

職場で男女が同じような行動をとっても、それが男性であるか女性であるかによって、その行動に対する見方が違ってくるといえることはありませんか。また、行動によって、それを行ったのは男性であるか女性であるか決めつけてしまうということはありませんか。

先日、私の周りでもこんなことがありました。わが家では夫婦が起きるのはほぼ同じ時間、先に台所に行ってお弁当の用意をするのは夫である私の担当です。職場でこのことを話す機会があったのですが、驚かれ

たり、感心されたりと色々な反応がありました。

ここで、職場の人が驚いたり感心したりすることを皆さんはどう感じましたか。

なぜ、わが家ではこのようなことになっているかということ、理由は単純で、「身支度に時間がかからなくて時間が空いている方がお弁当の用意をしている」ということです。

このことを話すと、職場の人から「そういう考え方だったんだ」、「女性がすることが当たり前だと思っていたよね」といった話が出ました。

こんなところにも思い込みや固定観念はあるのだなあと改めて気付かされることになりました。

思い込みや固定観念は誰もが持っています。そしてそれは、時として、偏見や差別につながるがあると思います。

しかし、自分だけでなく誰しもそうした傾向があるということをまず自覚することができれば、それだけでも偏見や差別をなくしていく一歩になるのではないかと思います。

人権啓発講演会

問い合わせ 白山市民会館

☎262-7026 ☎262-5638

数々のヒットドラマを手掛けたテレビプロデューサー・作家の栗原美和子さんによる講演会「差別のない社会をめざして～橋はかかる～」を開催します。

と き 9月10日(土) 19時30分～21時

※19時開場

ところ 白山市民会館2階大会議室

定員 先着200人

参加費 無料

申し込み 不要

その他 手話通訳・

託児あり



栗原美和子さん